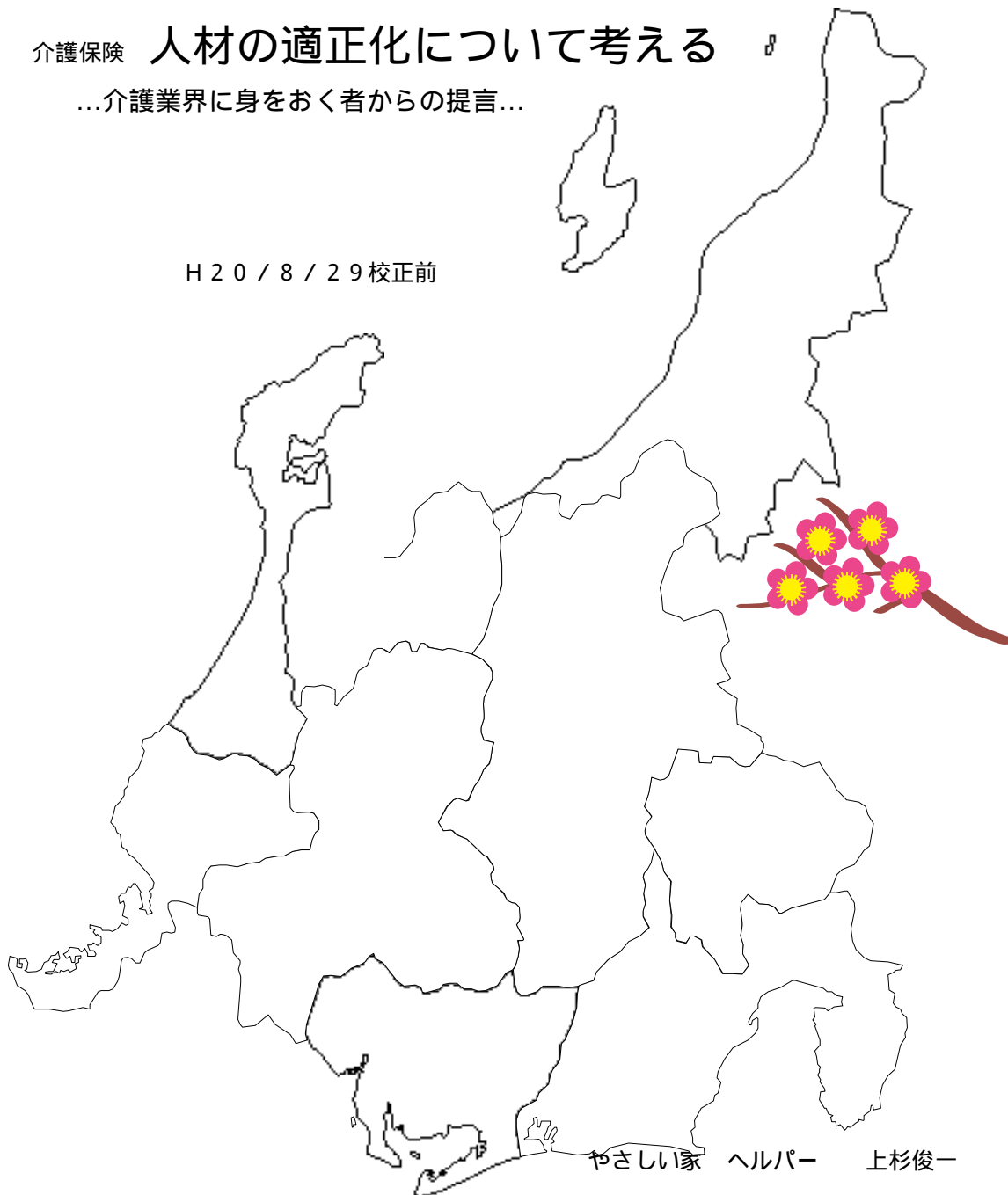


介護保険 人材の適正化について考える

...介護業界に身をおく者からの提言...

H20/8/29校正前



この散文は、「ホームヘルパーとして働く私たちの社会的地位向上を目指して」考えたものです。日本を立て直し、ヘルパーが立ち上がる。結論はクラウドイングアウト論になりました。業界人だけでなく、多様なご意見を反映したく思っております。ご意見をいただければ幸いです。

410-2401 伊豆市牧之郷394 やさしい家 管理者 上杉俊一 Mr.UESUGI Shunichi宛

電話 0120-74-8133 ホームページ [やさしい家のページ](#) [検索](#)

平成20年8月29日(金)

提言：介護労働の夢と未来について

410-2401 伊豆市牧ノ郷394番地
ホームヘルパー 上杉俊一

「ヘルパーはこれからの夢のある職業」

多くの報道機関が、介護労働の劣悪な条件を報じ、世間では、多くの介護労働者が希望を失いかけております。

今後、訪問介護を安定的に供給する為に、ヘルパーやケアマネが将来を拓く「糧」となれば、と以下の提言を考えました。

提言：介護はこれからの夢のある職業です。

もくじ

1, 日本及び伊豆の労働需給の歴史	
(1) 労働環境の変化の歴史	p 3
江川担庵から、置県後の明治	大正から昭和初期
戦後 金メッキの幸せ	
朝鮮戦争と雇用 高度成長前期	バブル後
(2) 介護保険と労働環境	
(3) 介護ヘルパーの幸せとは	
(4) 宗教的価値観	
2, 介護保険開始後の現状認識	p 10
(1) ヘルパー報酬の背景	
(2) 成功と不成功の認識	
3, 具体的解決策	p 12
(1) 教育の機会 第三者の評価 教育の内容	
(2) 公共選択教育(あらゆる住民に)	
恥の概念	
(3) 公債発行の制限 赤字財政の構造	p 14
政治家の弱み 先進国の取り組み	
(4) 徹底的な情報公開	
(5) 地方分権(個人主義の限界)	
4, 展望	p 16
(1) 上位者の発言 (2) リスク回避の下限検討	
(3) 介護ヘルパーは神である (4) 雇用の安定	
(5) キャリアアップの為に	p 18
5, 以後の問題と	
見通し	p 20
1, 日本及び伊豆の労働需給の歴史	



(1) 労働環境の変化の歴史

江川担庵から、置県後の明治

「天領と代官 小作と地主」

農業が主産業であった伊豆地区では、農村において地主の保護を求める小作農を、地主の代表である庄屋が支配した。庄屋を支配する江川は軍事やパンが有名だが、「農民の商品生産力の向上」に尽力した。これにより、飢饉や災害に備えができ、年貢の納出料が増え、財政の改善につながった。

労働力の提供者であった農民は、貧困と劣悪な労働条件に耐え、祭りや盆暮れなどの行事等を楽しみに（今で言うレジャー）した。代官や明治の役所は庄屋や地主と共に祭事もバックアップした。

（中世ヨーロッパの領主 - 荘園体制と似ている。）

大正から昭和初期

「商工業の発達 資本家と労働者」

日清 日露 第一次大戦への参加と勝利にわいた時期は、日本も遅ればせながら産業革命による工場労働者が出現した。伊豆では、繊維工場の原料である養蚕がさかんであった。鉄道により 終着駅大仁には、物流労働 商業労働（卸売り小売り）労働者 いわゆる 主人公が雇用者で、丁稚や手代が労働を供給した。

工場も、鉄道も、丁稚も手代も、貧困と月2日の休暇という劣悪な労働条件であった。

多産農村による、長子相続の習慣で、過剰労働者が、新たな産業の供給源となった。機械技術の進歩により、労働を機械が代替えし、一人あたりの生産性が向上し、実質賃金は上昇基調になった。

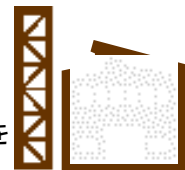
昭和恐慌で、雇用の継続に執着した企業と、解雇した企業があったが、後 好況が訪れた際、松下などの前者が急速に発展した経緯から、日本の企業が「終身雇用を重視する文化」が生まれたという説もある。

恐慌時の失業については、金融市場の変化に深くかかわるもので、いちがいにこのアメリカの大恐慌に始まった 昭和恐慌時代に解雇した経営者を批判できないが、この失業という不幸が、後に政府需要創出 = 大きな政府というケインズを生んだ。

次頁解説 * 網元・茶山・杉山の地主が農地改革と現金封鎖の被害に

合わなかった。マッカーサーの平等化は農地と現金保有者を素寒貧にしたが、完全な平等化はできなかった。

戦後 「資本主義と社会主義の競争」



農地改革と財閥解体により、マッカーサーは、資本家の搾取を平等化しようとした。地主は農地を分配し、金持は極端な累進課税と現金封鎖後のインフレでほとんど資産を失った。マッカーサーの平等社会が実現した。

護送船団で、東京オリンピックまで、経済力が右肩上がりに上昇した。民間を極端に下回っていた公務員給与は **田中内閣当時、民間正社員の平均値に改められた。**

二度のオイルショックを乗り越え、バブル崩壊までは、国民皆中流社会になった。社会主義との競争で、欧米と日本は、資本主義体制の中で、**労働分配率は社会主義国より平等化し社会福祉を増進した。**

競争の結果は社会主義の敗北に見える。冷戦の終結が予見され、レーガンサッチャーの小さな政府構想が実行された。国家財政基盤の安定が図られている。先進国内では、一時イタリアが財政赤字に苦しんだが、現在の日本ほどではない。

金メッキの幸せ

技術者集団ソビエトによる、管理計画された需要が適切な雇用を生む。としたTヴェブレンの理論は、消費財を公正に分配するという発想だった。

日本では あまり高名ではないかもしれない。ヴェブレンは「金メッキの家や衣装ドレスを、インディアンのポトラッチ・野蛮人の羽根飾り」と **侮蔑**した。彼の理想は、マルクスの思想と共に、バブルの反省を喚起させる。

アメリカの「大衆車トヨタカムリ」と「高級車レクサスES」は値段は倍違う。車台とエンジンは同じで、作りが違う。

レクサスやベンツを認めない社会、カムリやカローラを公正に分配する社会、産業と営利を二分し、結果の平等を目指す社会。そういう理想を掲げた思想家があったが、マッカーサーの戦後統治後半、ソビエトとの冷戦が始まり、日本ではこの思想が定着しなかった。

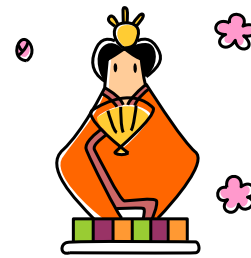
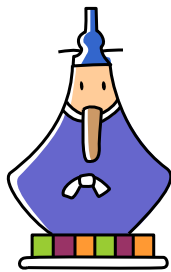
筆者は、1985 - 87年当時の西ドイツにサラリーマンとして赴任した。西ドイツから、東ドイツの中にある西ベルリンまで、自由主義国のクルマが通れる高速道路があった。西ドイツのビザを持つ人は、東ドイツに入れた。森鷗外が「なんと美しき黄金の華道」とつぶったあこがれのウンターデンリンデン通り、西側は **ポルシェやベンツ** が並び、確かに東京の銀座より **パリのシャンゼリゼ並みに、きらびやかで美しかった。**ところが、壁の東は **トラバントという小さな軽のような昔っばいデザイン**のクルマ1種類し

かない。バーバリーもルイビトンもない。こけむしたような色の暗い街だった。20年以上前のまだ青春と言える年代だった私には、ヴェブレンの理想国家は活気がなく、非常にショックだった。

ちなみに、筆者は自家用で大衆車カムリに乗っている。老人施設の経営者がクラウンに乗ると誰が決めたのだろうか？高速だろうが、経営者としてフォーマルな儀式に参加する際も、他の経営者がほとんどクラウンが見劣りしないし、何も問題はない。ウインカーやガラス 実用内装部品は、全く同じ物である。木目パネルが「プリントか本木目か」、シートが「ファブリックかレザーか」、メーターが「プラスチックか電子パネルか」、トランクが「手動か電動でしまるか」、程度の差で、実用上の差異は全くと言っていいほどない。

現在の日本の雇用はこのような「インディアンのポトラッチ 野蛮人の羽根飾り」を購入するアメリカ・中国・ロシアなどに背負われて成立している。（トヨタの払った税金等で我々の介護の雇用もできるのである。）

新婦のドレスは金メッキ？



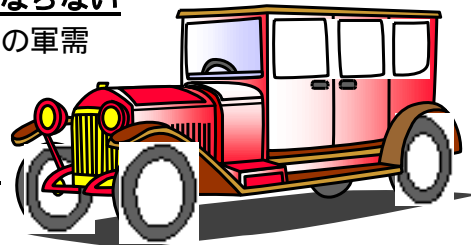
戦争と雇用

1950年 中華人民共和国の成立と同時に、北朝鮮は韓国に侵攻した。朝鮮戦争に出兵した米軍は、沖縄他 占領国日本を 拠点とした。この後3年間続いた戦争に、「米軍兵士の衣服、自動車等」の調達先として、日本が利用された。これにより、繊維 金属 自動車（ラジオつき）産業を好景気にした。

この特需による税収を基に、政府は電力インフラ 都市部の電話 地方は松下に 有線電話「ふたばんさ～ん。」「じゅうごばんさ～ん！」を普及させた。中東の石油輸送に必要なタンカーの生産技術があった日本は、造船まで世界一になった。

この神武景気は、「戦争の当事者にならない

工業国」の利益である。筆者は、「この軍需産業を持つ、自国が攻撃されない戦費を負担しない産業 この雇用に、雇用の持続可能性はない」と考える。



高度成長前

1953年、国連により「生産基盤の限界を超えて人口が増大する」という報告がされた。これを受け、一時日本では**出産制限を推奨**した。日本では、ベビーブーマー以後の世代から、兄弟の数が二人か三人が主流になった。第二次ベビーブーマー世代から、**晩婚・非婚化が目立ち出生率が低下、労働供給の減少はある。地球環境に人類が及ぼす影響も加味して、人口論も、クローズアップされつつある。**

バブル後

バブル後、政府主導の経済浮揚策は、実体経済の成長を生めず、プールや入浴施設 誰も使わないホールなど、無駄な資産が残りその維持費も捻出しようのない財政状況の自治体が殆どである。

ケインズの「雇用・利子および貨幣の一般理論」、つまり**国債発行**し、生産や市場を活性化し、雇用の創出を計る。今や、日本の多くの学者が、**政府の介入による経済浮揚ケインズ理論の妥当性を否定**さえしている。

平成19年後半、企業の正規雇用が回復基調であった景気が後退を始め、新卒を除き、正規雇用の機会は再度減少傾向を示した。政府主導での、**雇用需要喚起は失敗したとも言える。**



* 戦争の雇用 補足「出生や出目、運命によって選択肢がなかった時代」

私の祖父二人とも海軍の関係者であったので、聞いた話だが、祖父のような自分から進んで軍人になった職業軍人は、死なない方策も知っていたという。「赤紙等強制的に雇用された方 学徒動員等の優秀な方」が、戦場のノウハウがない為に目の前で次々と亡くなっていく。将来を約束された民間人が逝かれる、素人の方々の無念を思うと生きていられない。自分が生きて帰ったことが恥ずかしいと言う。この**強制的徴兵も雇用である**。日本が人権のある国になった後に生まれた筆者は、**職業選択の自由しか知らない。民主主義 自由主義 しか知らない新人類には、この雇用は概念として理解しにくい。**

小説「蟹工船」も、示唆するところがある。この80年前は海軍の、軍艦「武蔵」勤務では「洋風料理のテーブルマナー」で牛も蟹も美味であったと祖父は言った。祖父の子の私の父が昭和7年生まれの高校教員だが、今 介護の仕事をしていて、戦後の大**手の蟹工船船員（昭和8年生まれ）**の要介護者様がいらっしゃる。小説から30年後の50年前 **蟹工船新入社員の給与が、同い年の教員給与の40倍（40万円）であったと利用者様と奥様が言う。**これは、父の事実と一致する。命をかけた「漁師兼缶詰労働の労働生産性」は労働の適切な評価をしていただく運動によって評価が上がったのだ。△ルパーは、**必ず、戦後の蟹工船と同じように地位が必ず向上する。**

(2) 介護保険と労働環境

医療保険と介護保険は労働の対価としての保険請求が点数つまり金額として決まっている。平成12年の介護保険のスタートと同時に、特に既存の法人は、正規雇用をせず、欠員を全てパートや派遣に切り替えてきた。

民間を参入させ、競争により、サービスの質を維持しながら、労働生産性は、費用対価としては措置の時代に比べ、飛躍的に向上した。市場化はある意味成功した。

雇用は需要に基づくとすれば、制度改正により需要が押さえられれば、雇用機会は減少する。

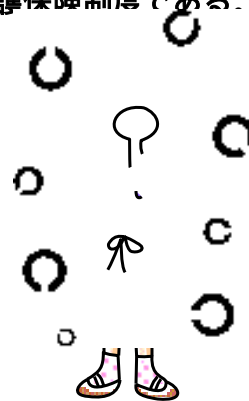
平成18年の制度改正以降、全国のヘルパーは、悲惨な介護報酬の現状と雇用不安から、自主的に他の産業に移る状況が続いている。

制度を維持したくても、労働力の提供がむづかしい法人が多く出てきた。人材を持ち財務体質の健全な法人が、介護保険サービス提供の不可能な法人のサービスを補完するかたちが、進行している。

また、納税の義務を負わない法人が、家政婦的な民間需要を浸食し始めている。構造として不適切で、的確な指導や規制が望まれる。

保険点数は、年功点数ではない事と、制度改正による需要制限は日本的終身雇用を前提としていない。

歴史の長い医療保険制度の中の看護師もそうであったが、人材の流動性は非常に高い。先進国を参考にした制度は、雇用の観点からは制度上不安定で、年功型賃金体制をつくりにくい医療・介護保険制度である。



(3) 介護ヘルパーの幸せとは

ここで、人の幸せについて二人の学者の仮説を紹介する。

福沢諭吉 今の一万円札になっている「天は人の上に人をつくらず」「学問のすすめ」が有名である。彼が壮年になり、明治維新が安定しだした頃「文明論の概略」という本を執筆した。その中で、**文明とは、「人の身を安楽にして心を高尚にする」**ことで「**衣食を豊かにして人品を貴くする**」こととした。

アダムスミス 福沢が外国の書としてAトクヴィル等の洋原書を読んだ。そのトクヴィルの世代が社会思想家として、倫理学の基礎となっていたのが、アダムスミスの「**道徳感情論**」である。スミスは福沢の二世代前になる。この感情論の中で、**幸福とは「心が平静であること**」とし、人間の野心の起源を虚栄心とし、野心と虚栄を否定しない。社会秩序は同感により成り立つ。人間は、**正義（他人の生命財産身体名誉を傷つけない）と慈恵（他人の利益を増進する）**に同感する。野心がなければ文明は生まれなかったとした。

筆者は介護ヘルパーが幸せになる為に、こう考える

介護は、神聖な職業であるが、筆者もヘルパーの仲間も「**自らの身を安楽にして心を高尚にする**」ことで「**衣食を豊かにして人品を貴くする**」権利を有する。「社会的地位」を向上しようと思うのは自然な感情である。世間が第三者であるとすれば、世間に同感していただく必要がある。

「他人の生命財産身体名誉を傷つせず、他人の利益を増進している」と第三者が同感しやすい資格にすればいいと。



(4) 宗教的価値観 (豊かさを求める合理の変化)

16世紀 地中海レパント海戦において、
トルコにスペインが戦勝した。大航海時代到来により、
スペインが一等国になった。



18世紀初頭
イギリスがアメリカ大陸北部を
フランスがカナダの一部の覇権を得、西欧が一等国に変わる。



先進一等国の宗教は
回教
カトリック
プロテスタントという順である。



マックスウェーバーは、「プロテスタンティズムの倫理」の中で、西欧が海の覇権を制し、産業革命が進展し先進国となった理由として、「カトリックの丁寧に書いた手書きの写しを重んずる価値観」よりも、「マルチンルターの印刷技術の革新によるコピーの合理性」が社会の豊かさをもたらす。「呪術の時間を生産に回す、実利主義」の台頭があったと述べている。

同じような事態として、中国が共産主義を選択した際に、**実利を求めて 国を捨てた華僑**の方が母国の共産党官僚トップより、豊かになってしまった。

文明の進展と同時に、経済的合理性に基づく豊かさという価値観が生まれた。文明国中国の近代化の遅れの説明もしている。儒教の君子「儀礼作法を間違はなく実行する人物」よりも、「プロテスタントの倫理を基準として、現世の生活を革新する心的態度」が、科学や豊かさの進展をもたらしたという。

プロテスタントには、豚を食べない 食事を取らずに 水だけで過ごしアラームをとむらう回教徒の、長すぎる呪術的時間の合理性が理解できない。

神前で結婚し 新婦のお色直しはドレスで、ケーキ入刀をして 料理は和洋中卓盛りの日本人に、特定の宗教の呪縛がない。戦後日本でも、儒教や仏教・神道の呪術的道義の価値観よりも、**経済合理性を重視するこのような価値観を、生活や文化の洋化により、日本人も持ち出した。**と筆者も感じる。ヘルバーが「その神聖な労働の対価」の改善を主張する事は、現代的価値観として、おかしな事ではない。



2, 介護保険開始後の現状認識

(1) ヘルパー報酬の背景

介護保険のスタート時に、ヘルパーの措置の費用が時間単価5千円で、市場の家政婦の費用が1530円であった。これを、当時の厚生省内審議会においてこれを市場（家政婦）並みにおさえる、とした。

当時の措置と、家政婦の労働は、それぞれの専門性（措置は旧厚生省の介護福祉士 家政婦は労働省の介護アテント士：当時の国家資格の評価はされにくかった）の定義がなかった。

市場原理の導入と顧客の自由選択によって、単価を下げることに成功した。より多くの雇用創出ができたという見方もできる。が、例えば大学の家政科で勉強してきた家政学士の評価がこの1530円が適切であったか？

は、おおいに疑問が残るところである。現代版「蟹工船」「野麦峠」を連想させる。



(2) 成功と不成功の認識

成功した、国の思惑

ヘルパーの単価減

公的サービスの質を維持しながら、単価は5千円から半分以下に下げること
に成功した。

キャリアアップの指針の先が見えてきた事

ヘルパーで、3年の経験をふんだ者は、ほとんどが合否は別にして、介護福祉士を受験した。学習する事によって、専門性が高まり、「介護福祉士は中学校卒業程度の理科と、学士レベルの家政学水準である事」が露呈した。（身体の構造の中学校教科書は結構高度な内容であることを付け加えておく。看護師国家試験筆記と介護福祉士筆記の試験レベルの理科系部分の差が、高等教育程度か義務教育程度かの差であるが、その分介護福祉士は国語力 という意味では、かえってむづかしい。）

市場化により、財務経理の透明性が担保された事。

つまり、収入と出費を分析すれば、補助金のない法人の経理と民間の経理データを比べる事によって、何が無駄な補助金かが分析しやすくなった。

不成功は以下の事である。

好況時に、他の産業に人材が採られる事。

好況時に、サービスの供給が滞る質が低下する可能性がある事。

経営を知らない経営者の失敗が発生した。

この不成功は、教員・警察・消防の、国の要望する「人件費適切化に反対する、例えば日教組の論理」と同じである。

くすのきの郷コムスン問題において 順法精神の欠如した経営者がいる事がわかった。くすのきでは、施設長のみが辞職し、経営者が責任を取っていない。コムスンでは、需要の動きに不適切な過度の設備投資が、無理な営業活動を強いた。経営者（防衛大卒：彼の名誉の為に付け加えるが、非常に貧しい少年時代に耐え、高校から防衛大附属高校である。非常に優秀な人材である。が、筆者は 経営者は極端な事を言えば一にも二にも正しい倫理観さえあれば、IQは××でもいいと考えている）に、経営資質として最も大切な倫理観が欠けていた。まして、平成16年夏の審議会等で、来る18年4月の制度改正の内容はすでに決まっている。需要の調整局面が読めない経営者は本質的に経営の舵取りの資質にも欠ける。

この文面を読んだ方は、国の審議会等委員はまるで悪魔のように思うかもしれないが、その趣旨は「保険料増や増税を望まない国民の意志」であることも忘れてはならない。現代版「蟹工船」の搾取者は国民でもある。



3, 具体的解決策

(1) 教育の機会均等

ヘルパーやケアマネとしての資質向上に向けた**教育の機会均等**を図る。具体的には、構造的に平日の9時 - 17時は特定の法人がサービス提供し、平日のそれ以外の時間と土日祝日はNPOや医療法人母体・民間法人がサービス提供している現実がある。

土日で研修を組んでも、毎日17時に帰れて 土日休める「お先にスタッフ」しか受講できない。税を財源とする研修は、「平日の18:00過ぎから、ヘルパーやケアマネ向けの資質向上を図る機会を設ける」事を提案する。

- 第三者の評価

主観を入れにくい、全くの**第三者**に教育の成果を評価していただく。

- 教育の内容 関連する資格との整合と画一化の回避

医師 薬剤師 看護師 PT OT 等と、整合性がとれる配慮は重要である。

が、時の権力が教育内容を画一化すると、世間の常識からかけ離れてしまう。20年4月の「後期高齢者医療制度」は、我々専門職には周知の事であったが、世間では75才で線引きする事に大きな疑問を抱いた。つまり、内輪の常識が世間とかかけ離れてしまうと、社会的評価を受けにくい。

よって、画一化を避ける配慮と、合格に**必要な知識を事実と実証科学**に限定すべきである。福祉の歴史等については、**宗教や政治の事実**を問いたい。**結論を導く問題は避けたい**。

(2) 公共選択教育(あらゆる住民に)

市場原理には、経営の失敗に対して有限責任であるが、経営者はその責を負う。経営者は、最終的には個人資産の全てをもって保障する。

政治の決定した公共選択の結果については、公的責任者はくすのきの郷の例の通り、責任を取れないシステムができがちである。文京区の区長・議員や管理職員は「**社会厚生を最大化する志**」はあっても、インドのアマルティア・センの言う「合理的な愚か者」になってしまった。



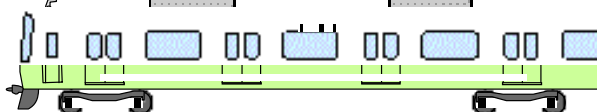
公共選択論の成功例と失敗例

非課税法人を課税法人に変えた前例は、旧逓信省の電話 NTT、旧運輸省の国鉄と日本航空 JRとJAL、、、JT JT B JP post 云々

政府は国民の為に、事業を興した。が、日本の国鉄の事例のような経営の失敗が、国家財政をひっくりかえす程の失敗になった事例が世界中多々ある。

公共選択の目的は、効率化 サービスの向上 透明化による納税 国民負担の軽減である。

成功例を二つあげる。



A 国鉄 労働争議にあけくれた国鉄 搾取者は、官僚経営者 被害者は労働者であった。

(ただし、官僚経営者の当時の給与は、民間経営者の半分以下であった。)

民営化によって、経営者は勿論、労働者の給与は結果的に向上した。この主な原因は効率化と、給与物納(昔:国鉄職員は全国どこへいくのも無料だった)廃止、「経営者が予算規模最大化をする使い切り予算メリットがなく なった」事による。

B 日本航空

昭和後期、客室乗務員の年収は、手当を含めると地上職の倍あった。22才の新入社員の年収が昭和の時代で500万以上あった。民営化で現在時給1100円である。飛行機に乗る方がお金持ちだけだった時代は、有名女子 大を出た英語堪能な背の高い才女が採用された。

現在、国民のほとんどが搭乗し、客室乗務の専門性は、避難誘導以外は専門性の高い労働に見えなくなった。主に、労働生産性評価の適正化により運送料金が下がり、国民の利益になった。

公共選択(民間化)の失敗例

県立中央病院と高知市民病院を統合したPFI(半官半民方式)の高知医療センターでは、前院長と業者が贈収賄で逮捕されており、病院本体の赤字が改善されず、下請け孫請けのみが黒字という状態が、失敗と報道されている。(東京新聞 10/7)これも経営者の倫理観の欠如による。

上記のような公共選択の成功例や失敗例も含め、市民教育をする必要がある。

- 恥の概念

明治、大正、昭和一ケタ世代には、公的サービスの世話になる事は、「恥」という概念がある。まじめに働いて 納税の義務をはたした**成功者は、福祉の世話にならない。**という人生の**成功感**である。

養護されず、いつまでも**自立していく**。老後も、民間サービスを利用する事に**ステータス感を感じるしくみ**をつくる事が、給付抑制につながる。

(3) 公債発行の制限



- 赤字財政の構造

ケインズ経済学の否定

本稿「P3 バブル後」に登場したケインズの否定から。

政府の失敗例

小淵内閣当時、国民の批判を受けて、小淵内閣は1億円の村おこしとか、入浴施設とか、温泉プールなどの今は無駄と報道されている、社会資本を整備した。この1億の使い道に困って金(きん)の「町の記念碑」をつくり、(つくった時期は不況時である)誰も見にこないこの「金」が泥棒に盗まれて、盗まれた時価評価額が報道された。

この頃税金で造った温泉施設は、民間の温泉旅館等、の法人を弱体化させた。不況で需要が増えなく料金競争ができないので、旅館には決定打となった。「公共の温泉施設完成半年後」、が「民間温泉施設や旅館の破綻」のタイミング全国の相場であった。伊豆市でも同様の事態が発生し、市民の記憶に新しい。

天災時を除いて、不況時に、財政支出をいったん拡大すれば、好況になったからと言って縮小できない。ケインズ政策は、不況の後、**好況時にも財政規模を不必要に膨張させる心理を抑制する機能が無かった**のである。小淵さんは前政権の改革を、もっと進める必要があった。と、今になって報道されている。(数字の上では改革は自明の理であるが、改革の建設業界の雇用不安問題もセットで論ずるべきであった)。このケインズ疑問視は1931年ロンドンで、すでにハイエクが「隷属への道」で論じていた。

選挙で選ばれる政治家の弱み

選挙で選ばれる政治家は、**当選を期して**多くの政策を投票者に公約する。政治家は、負担である増税は口にせず、**各論反対論者の今の利害にひきずられる**。夢を大安売りする政治家が、「歳出を増加させる行動を取る。」結局赤字財政は累積していく。

先進国では

1970年代、「動学的不整合性」が、アメリカで議論された。(2004年ノーベル賞キドラントの学説)これは、現在から将来にわたりある目的をよりよく達成する為、現時点での最適が、将来の時点では望ましくなかった。という評価が出来る場合の政治決定を、決定の不整合と呼んだ。公債の発行の責任を次世代が負わされる負担増が、将来の国力を大きく阻害するという説である。



(4) 徹底的な情報公開

過去の決定の責任を問わない事を前提として、財政赤字が制御できないほどに膨張する恐れに対する歯止めは、公共選択の市民教育を徹底した上で、**現在の事実と予定の公開**をする事で、「議会の正しい決定に資する事」が可能と考える。

(5) 地方分権(個人主義の限界)

欧米のように、王政等の独裁から自由を奪い取った歴史ではなく、江戸幕府の攘夷で得たかもしれない自由民主主義国家を自称した日本に、最終的に自由を与えてくれたのはマッカーサーであった。

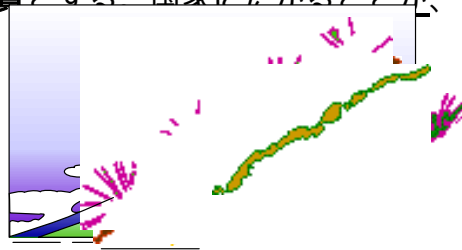
資産が分割され均等化し、職業の選択の自由が与えられる民主主義の国家では、人々は「自分の合理的な判断力で処理しえないような**伝統的な義務や信仰行事**」を拒絶し、**自分と家族そして企業の世界に閉じこもる**。その結果公的な感心を失う。伊豆の地元でも、昔からの農家や商店の家と、分譲住宅地の住民の地域行事参加率、地方議員投票率などでも如実である。

機会が平等に与えられているから、競争は熾烈になり、生産と販売が刺激される。有能な人間がビジネスに流れる。選挙のリスクを負う公的職務よりも、ビジネスエリートを目指す価値観が生まれる。公的感心の薄れた自由な国家では権力が国家に集中しがちで、特徴ある地域が減り社会的な平等を推し進め、方言までも減らす効果があった。

公的感心を起こす装置。1, **地方自治** 最小単位の地方自治に参加する事で、**利己的な個人は地域の利益を考慮する**。2, **陪審員制度** 人々は陪審員として、**正義とは何かを考え、自己の行為への責任、行政官的思考方、秩序への感覚を身に付ける**。3, **赤字財政を自責とする** 国家にたかると、**できなくなると、自立せざるおえない**。

(ふるさと納税 = 赤字の自責)

以上3点から、
地方分権を推し進めるしかなかろう。



4 , 展望

(1) 上位者の発言

田中角栄内閣以前の、義務教育教員の給与は民間の平均をかなり下回っていた。大学は出たけれど、入社試験は全部落ちた。しかたなく先生になった。いわゆるでもしか教師もいた。この時代、先生は市民から尊敬されていた。父兄からつるし上げられる先生なんて言語道断、こんなに安月給で働いてくれて、世間は聖職とあがめた。高級官僚も医師も教員を尊敬していた。

田中内閣当時、義務教育教員の待遇は民間並みに改善され、その後のオイルショック以後は、教員の学力という意味での質は飛躍的に向上した。

ところが、学力の高い高収入の先生に、現在発生している問題は指導力不足教員である。指導力のない教員を校長は解雇できなくなっている。国民の税負担は、指導力不足教員の人件費まで負担している時代になった。

ヘルパーの労働評価の現状が、昔の先生とそっくりである。上位者は昔の先生の安月給を尊敬したように、今のヘルパーを「ありがたい存在」として重要感を満たしていただきたい。尊敬されることは、やりがいになる。

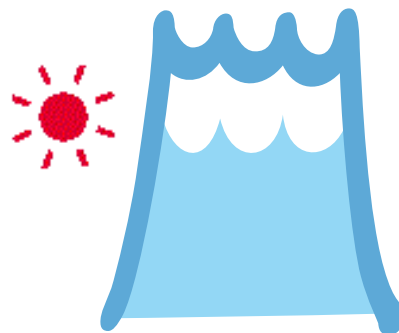
(2) リスク回避の下限検討

雇用保険 は勿論、 厚生年金加入 できれば、 退職金制度 などの介護労働者にとってのリスク回避が、保障できる介護報酬を、社会に訴える必要がある。1時間1530円の介護報酬から捻出するのは、誰が見ても不可能 である。まずはヘルパーの人権から訴える。

(3) ヘルパーは日本の宝

今まで、ヘルパー3級から始まって、2級 1級 介護福祉士と歩んできた、長く貢献してきた方々が、どんな思いで一步一步やってきたか、ひとりひとりの苦難の日々を思うと、業界には神のごとき存在である。

介護を提供する人材は、我が国の尊い神に価する存在である。



(4) 雇用の安定と特殊能力

責任者の安定のデメリット

・共産主義国

秩序を維持する為に、権力者に権限が集中し、秩序を維持してきた。自由主義国の繁栄を見る事がなければ、世界中共産主義国になったはずである。**分配を過度に公平にしようとする、優秀な人材が他国に逃げてしまった。**

秩序維持の為に、権力者の地位安定が不可欠であったが、創造的技術革新は、競争を排除した夢の公平国家には生まれなかった。

・アメリカのテニユア

アメリカの大学教授には、第二次大戦後、**テニユアつまり終身被用権**が与えられた時期があった。その大学教授たちは、自由で競争的な市場原則にもとるとして、関税や規制を批判した。

雇用リスクにさらされない学者たちが、実存する社会を無視して、理論だけで例外なしの一律自由化を論じた。現実遊離の理論は暇つぶしである。

社会的立場の高い者の過大な安定は、社会の利益にならない。



責任者でない者の安定のメリット

・責任者になる、あるいはなった者は、スポーツや文化であれ資格であれ学歴であれ学校や会社や役所の一定の競争の中で残った者である。例えば大学で**学長の気分にくビにされた有能な教授は、別の大学が必ず雇用する。**

・責任者にならない者は、競争で振り落とされると行き場がない。雇用不安が過剰になると、江戸時代の浪人のように、辻斬りをしたりする社会不安を生ずる。**その緩衝が雇用保険・年金・生活保護・最低賃金**である。

が、時に理屈に合わない経営者が気分だけで、被雇用者を保護しない場合が生じたらどうだろうか。それを規制するのが法である。

社会的立場の高くない者の道理に基づく安定は、社会の利益になる。

企業特殊能力と公務特殊能力

・空港のエクゼクティブルームで「社長のカバン持ち」を良く見る。公共事業発注を受けている企業の課長が、国土交通省の課長のカバンを持ちたがる。社長も国の官僚も「一義が社会・国民の利益」であって、自分の気分を良くさせる「カバン持ちをかわいがるのは次義」である。企業でも省でも、××県でも上にかわいがられず窓際になっている者がいる。その能力を最も有効に活用できる「再配置」は社会の利益である。

企業も役所も、事業も公務も人間の生活の質に責任を負う。企業特殊能力

と公務特殊能力はその責任から、最終的には一致するものとする。

(5) キャリアアップの為に (破壊と創造)

教育機会の確保

ヘルパーが、現業に就きながら学習できる

通信教育制度をつくる。機会の平等を担保する。



修了者には、試験を実施する。破壊。

通信教育の受講結果判断としての、試験内容を、高等教育レベルにし (結果として正看レベルになる。破壊である)、上級介護福祉士とする。

上級介護福祉士は、経験5年以上であれば、経営者も受験できるように、受験機会は全てに解放する。合格レベルを厳格に全受験者の 割とする。

機会の平等は結果の不平等を生む。合格者の介護報酬を一般のヘルパーの二倍とする。

不合格者の自発性維持の為に、ドイツの経験年数を重視するマイスターを参考にする。

人的資本への投資

上記試験の合格者の中から公平な採点による30才未満の上位成績優秀者5%に、高レベルな教育課程を特待で受ける権利を与える「支援制度」を創設する。推薦は一切受け付けない。高度な教育を受ける機会も貧富や親の経済力に関係なく平等にするのである。機会の平等が生んだ不平等には、民主主義の本質がある。多様な道を共存する為に、試験に合格できなくても「勤務評価が高いマイスター」を尊重する。

というのはどうだろうか？ ご意見をください。0120-74-8133上杉宛

あとがき

明治政府官僚の、九大閥 現山口大閥 が、官僚養成専門学校 (現東大) 閥が主流になるのに50年かかっている。社会的地位向上の為に、縁故や好き嫌いを廃して、公平を期すると、試験による選抜以外に考えつかなかった。

社会的地位向上の成功例として看護師がある。今だに准看のほうが使いやすいという医師もいるが、第三者が評価できる正看ができて今や副院長を看護部長がする時代である。

マークシートの序列が全てではあるまい。現に、政治の世界では、今や全人教育に力を入れる、私学出身者の首相が主流になった。全人教育というの がこれからを創造していく、自由が約束された社会の多様な人材を育むと考える。責任者は、資格重視だけでなくマイスターの精神で、介護労働者の全人

格を尊敬し、従事しなければならない。

5 , 以後発生が予想される問題

知識労働者のマネジメント

上記4で示した 上級介護福祉士の上に位置する高度な教育を受けた者の
労務管理が生じてくる。自分たちが弁護士、医師、高級官僚などと同類だと 自
負するかもしれない。

こういった知識労働者は、雇用される場合、その雇用者は市長であったり
社長であったり理事長であったりし、彼らと同じ専門領域の人間ではない。
彼らの仕事を計画し、統制し、評価するのは経営管理者である。ここに、自 負
に現実が立ちはだかる。知識労働者は、組織と必ずぶつかる時が来る。

このジレンマを解きほぐすのがマネジメントである。知識労働者に 生産
性を高め 満足感を与え 成果に結びつく管理をする。つまり自己実現を強
く望む知識労働者を動機付け、意欲と自負心を絶えず満足させながら、大き
な成果に向けて組織化するマネジメント能力が必要になる。

雇用者の人事が大切になる。選挙という不安定に支えられる雇用者はまだ
しも、社長・理事長の人事についてはチェック機能が必要である。トップの 雇
用が安定しすぎると、「独占的な考え方やはき違えた競争の排除」がむづ か
しくなる。雇用者は、知識労働者の意見に耳を傾け、自主性を重んじなが ら、
「健全な経営の成立」が社会の利益になる説明をする責任がある。

経営者が経営学修士MBAを持てばいいというのではない。昨今のMBA
は、理論と分析能力のテクニクばかりで、サイエンスだけなのである。筆
者は、経営は科学というより、アートに近いものではないかと感じる。創造 性
である。

創造的破壊によって生じる社会の不連続性を知識労働者と共有する情熱
が 必要になる。

共感能力の低下

例えば、国家一種試験に合格できるようなヒトは立派な人格を持っている
はずだ、と思いきみがちである。キャリア官僚の中に、ノンキャリアに対し極 端
に冷徹な方がたまにいる。試験に合格できなかった同僚に対してである。
医師等以外の知識労働者に、「共感能力」を理屈として理解させる手段と し
て、生物学（遺伝子）をはずせないと筆者は考える。地球上の人類の中で、
4親等先までの祖先(曾祖父母の親まで) $2+4+8+16=30$ 名全員が健康で頭脳 明
晰であったなどあり得ない。必ず何らかの障害を持った祖先がいたはずであ
る。その障害の偉大さがわかってくる。介護を提供する知識労働者にこの 教
育を再徹底する。すべての遺伝子の偉大さに驚嘆する。おのづから共感 能

力が身につく。生物学は、環境問題も自責と感じさせる効果がある。

参考文献等 1 松下幸之助「正道を一步一步」 2 アダムスミス「道徳感情論」 3 稲盛和夫「哲学」 4 J K ガルブレイス「ゆたかな社会」 5 石田梅岩「心学」 6 ブキャナン・タロック「公共選択の理論」 7 内田秀子「ナイチンゲールのこころ」 8 G ベッカー「人的資本」 9 江口克彦「心はいつもここにある」 10 A トクヴィル「米のデモクラシー」 11 福沢諭吉「文明論の概略」 12 D ヒューム「人性論（道徳問題に実験的手法を取り入れる試み）」 13 谷口全平「人生をひらく言葉」 14 P・F ドラッカー「不連続の時代」 15 津本陽「不況もまたよし」 16 M ウェーバー「プロテスタンティズムの倫理と精神」 17 本間正人・高橋仁「EQ コーチング」 18 J・A シュンペーター「資本主義社会主義民主主義」 19 玄田有史「石川経夫先生・社会の分段」 20 アマルティア・セン「合理的な愚か者」 21 木野親之「叱られ問答」 22 ロバート B ライシュ「暴走する資本主義」 他

メモ

見通し

財政支出を最適化しながら、成長による税の増収を図り、その社会の中で、ヘルパーの地位を向上するには、一にも二にも教育である。徳育 体育 知育とある中で、一番大切なのは徳育である。二番目が体育 三番目が知育と個人的に考えている。今の日本は徳育と体育がクラウドイングアウト(押し出されて いる 状態)している。

成人したヘルパーの成長こそが、日本の未来を明るくする。目的地ははるか山のてっぺんにある。例えば箱根山としよう。箱根駅伝で国道1号を登るヘルパーに 国民が旗をふる。勤勉というか、介護という産業(INDUSTRY)の 目標たる到達点に結果として 楽に登れる「それ」は、ターンパイクになる と考える。

ホームヘルパー 上杉俊一